

## 令和4年度第3回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和4年度第3回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和5年3月17日（金） 午後2時から4時まで
- 3 開催場所 一関保健センター 多目的ホール
- 4 出席者
  - (1) 委員 阿部新一委員、砂金文昭委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、  
小野寺千絵委員、小山亜希子委員、小岩邦弘委員、齊藤裕美委員、  
佐藤柗平委員、佐藤弘子委員、東海林訓委員、菅原君代委員、  
菅原敏委員、千田博委員、徳谷喜久子委員、千田好記委員、  
廣長千鶴子委員、若山義典委員
  - ※欠席者 伊藤清里委員、大内早智子委員、大沼佐樹子委員、尾形亜紀子委員、  
佐藤紀夫委員、館山壮一委員、千田久美子委員、三浦幹夫委員、  
吉田正弘委員
  - (2) ファシリテーター いちのせき市民活動センター  
小野寺浩樹センター長、千葉歩主任支援員、佐々木牧恵主任支援員、  
鈴木純香支援員、村上駿輔支援員、金野勇希支援員
  - (3) 事務局 鈴木淳市長公室長、菅原稔市長公室次長兼政策企画課長、  
小野寺啓総務部次長兼財政課長、  
鈴木敏宏政策企画課長補佐兼政策推進係長、  
渡辺苑子政策企画課主任主事、熊谷尚孝政策企画課主任主事

## 5 議 題

- (1) 令和5年度予算の概要について
- (2) 総合計画実施計画（令和5・6・7年度）について
- (3) ワークショップ「総合計画各分野の課題解決に向けて」

## 6 公開、非公開の別 公開

## 7 傍聴者の数 1人

## 8 小岩会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

今年度3回目の審議会であり、現委員では今回が最後の審議会となる。

今回もワークショップの時間を多く取るため、質問については、会議終了後に書面またはオンラインで質問を受け付ける。

これからの一関市を考えるに当たり、委員だけだと「これはできるだろう」という考

えだけが大きくなってしまい、後で収集がつかなくなってしまうので、今回は市の職員の方々にも入っていただき、専門的な知見で良いものは良い、悪いものは悪いと言ってもらいたい。法的に不可能なものや、今の一関市が進んでいる方向と違うことがあれば遠慮なく言っていただきたい。

来年度から本格的に始まる次期総合計画基本構想の策定に向けた資料にしたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

## 9 審議の内容

事務局から資料No.1と資料No.2の説明を行った後、ワークショップを行った。

以下、グループ①～⑤に分かれて行ったワークショップで出た意見を、いちのせき市民活動センターが全体に共有した内容である。

### (1) グループ① 地域資源をみがき生かせる魅力あるまち

一ノ関駅前にアンテナショップを作るという提案があった。

物を売るだけのアンテナショップではなく、一関を訪れた人たちが一関の物を実際に食べることができて、さらには市民への周知にも繋がるような施設がよい。

アンテナショップの整備を目指すに当たっては、担い手の確保やブランド的な生産物を増やしていくことが必要である。

### (2) グループ② みんなが交流して地域が賑わう活力あるまち

来年度からチャットボットが導入されるということだが、高齢者などスマートフォンが使えない方に対して、窓口対応、デジタル対応など選択肢が複数あるような仕組みとしてほしい。

### (3) グループ③ 自ら輝きながら次代の担い手を応援するまち

人間らしさや心の成長が見られる、妊娠期から幼児期までの子育てが特に重要であり、この期間に親と子の愛着関係を築くことが大切である。そのためにも、親が子育てを勉強する機会を増やしたほうがよい。

また、核家族化により子どもがコミュニケーションを取る機会が減っているため、地域との関わりを積極的に作っていくべきである。

### (4) グループ④ 郷土の恵みを未来へ引き継ぐ自然豊かなまち

自分が使うエネルギーは自分で作れるような一関になればよい。

初期費用はかかるかもしれないが、ランニングコストとトータルコストの説明でメリットを伝えて、それぞれが循環型社会について考えてもらえればよい。こういった考えを広めていくような組織が必要になってくるのではないかな。

### (5) グループ⑤ みんなが安心して暮らせる笑顔あふれるまち

前回のワークショップで市役所に「なんでもやる課」を作るという話があったが、

行政に頼るだけではなく、自分たちでできることは自分でやるような考え方が必要である。そのような中でも市役所には、とりあえず話を聞き、担当部署が違う場合は案内をするなどして、一緒に考える姿勢を見せてほしいと思う。

(6) 全体のまとめ

皆さんが議論した内容が、次年度から本格的な策定作業が始まる次期総合計画基本構想の素材になっていく。

新しい制度を作るという話よりも、今ある制度をどのように縦から横に繋げていくかということや、行政だけではなく市民力の部分をどのように向上させていくかというところに関心があるように思った。

子育て・教育の分野では、親の教育をしていきたいと思いますという視点があり、福祉の分野では、行政に頼るだけではなく自分たちで支え合えるような地域力の向上というキーワードが出ていた。

行政と市民が一体となってまちづくりをしていく必要があり、そのためには思いや考え方などの共有からスタートしなければ10年間はずぐに過ぎてしまう。

10 担当課 市長公室政策企画課